

4対2AVセレクタ

LSW-42AV
ユーザーズガイド
User's Guide

ランド周辺機器装置



◆ 御 注 意 ◆

本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。

1. 本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。
2. 本品は、十分な注意のもとに、放出電波が最小になるよう設計してありますが、電波や電磁波に敏感な機器（例えば、テレビ、ラジオ、マイコンを使った機器など）が近くにあると、ノイズ、誤動作等の影響を与えることがあります。
3. 本書は内容について万全を期して作成致しましたが、万一御不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、弊社または御購入になられた販売店までご連絡下さい。
4. 文中のイラストは、実際の製品と異なる場合があります。
5. 記載事項には、各社の登録商標も含まれております。
6. 本製品の使用・不使用により、万一損害が生じた場合のいかなる請求に関しても、一切その責を負いかねます。

この度は、4対2 AV セレクタ「LSW-42AV」をお買い上げいただき、誠に有り難うございます。

商品が届きましたら、まずお届けしている商品の内容を『パッケージ内容』にてご確認ください。

その上で本システムを最大限にご活用いただけるよう、本書ユーザーズガイドをご利用ください。

LAND *computer*

必ずお読み下さい



製品を安全にご使用いただくために

ここでは、製品を安全に正しくご使用いただき、使用者や他の人々への危害及び財産の損害を未然に防ぐための説明を記載しています。製品使用者は必ず本書を読んだ後、内容をよく理解した上で製品を正しく使用してください。

本書は読み終わったあとも、必ずいつでも見られる場所に保管しておいて下さい。

表示について

文中の絵表示には次の様な意味があります。

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると人が重傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみ発生が想定される内容を示しています。

表示の例



△記号は注意・警告を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意の内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



⊘記号は禁止の行為を告げるものです。
図の中や近辺に具体的な禁止の内容（左図の場合は分解禁止）

⚠ 警告

	<p>万一、本体から異音・異臭・煙が出ているなどの状態がある場合、<u>すぐに本体のスイッチを切り、その後必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。</u>この様な状態で使用すると、火災・感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認し、当社または販売店に連絡し、修理をご依頼ください。お客様による修理は危険を伴いますので絶対にお止めください。</p>
	<p>万一内部に水などが入った場合は、<u>まず本体電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて</u>当社または販売店にご連絡ください。そのまま使用しますと、火災・感電の原因となります</p>
	<p>万一異物が内部に入った場合は、<u>まず本体電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて</u>当社または販売店に連絡してください。そのまま使用しますと、火災・感電の原因となります。</p>
	<p>本体を落とした場合や破損した場合は、<u>スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜いて</u>当社または販売店にご連絡ください。そのまま使用しますと火災、感電の原因となります。</p>
	<p>本体の分解・改造・お客様での修理は絶対にお止めください。感電の原因となります。整備・点検は当社または販売店にご依頼ください。</p>
	<p>本体の上に花瓶・コップ・薬品や水の入った容器または小さな金属物置かないでください。容器の中の物がこぼれたり、機器の中に入ると火災、感電の原因となります。</p>
	<p>ぐらついた台の上や傾いた場所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。</p>

 警告

 	<p>範囲外の電源電圧（交流 100V±10%の範囲外）で使用しないでください。火災、感電の原因となります。</p>
 	<p>本体の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなど異物を差し込んだり、押し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災、感電の原因となります。</p>
 	<p>電源コードの上に重い物を乗せたり、コードがディスプレイ等の下敷きにならないようお気をつけください。コードに傷がつき火災、感電の原因となります。</p>
 	<p>電源コードが傷んだら当社または販売店にご連絡ください。そのまま使用しますと、火災、感電の原因となります。</p>
 	<p>電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災、感電の原因となります。</p>
 	<p>水気の多い場所では使用しないでください。火災、感電の原因となります。</p>
  	<p>雷が鳴り出したら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。</p>

注意

  	湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災、感電の原因となることがあります。湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災、感電の原因となることがあります。
  	湯煙や、湯気が当たるような場所（加湿器のそばなど）に置かないでください。火災、感電の原因となることがあります。
  	本体の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。
 	本体の上に重い物を置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。
  	電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶け、火災、感電の原因となることがあります。
  	電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。必ず電源プラグをもって抜いてください。
  	濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
  	移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、接続ケーブルなどを外した上でおこなってください。コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。



注意



お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。感電の原因となることがあります。



長期間を使用しない場合は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。



1年に一度くらいは内部の掃除を当社または販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまのまま、長い間掃除をしないで使っていると火災、故障の原因となることがあります。なお、掃除費用については当社または販売店などにご相談ください。

製品を安全にご使用いただくために

目 次

1 製品概要	1
1-1 概要	1
1-2 主な機能	1
1-3 対応機器	1
1-4 パッケージ内容	1
2 機器外観	3
3 接続方法	5
3-1 接続の概要	5
3-2 接続系統図	5
3-3 送信ソース機器の接続	6
3-4 送信先機器の接続	6
3-5 RS232Cケーブルの接続	7
3-6 アースの接続	7
3-7 電源ケーブルの接続	8
3-8 LNET-360 との接続例	8
3-8-1 接続系統図	8
3-8-2 送信ソース機器の接続	9
3-8-3 LNET-360 マスター装置の接続	9
3-8-4 コンソールパソコン・マスター装置の接続	10
3-8-5 ディップスイッチの設定	10
4 機器の設定	11
4-1 工場出荷時の設定	11
4-1-1 電源のAuto/Manualの設定	11
4-1-2 ディップスイッチの設定	11
4-2 電源のAuto/Manualの設定	12
4-3 電源投入時の表示画面設定	12
4-4 RS232Cのボーレートの設定	13
4-5 ハードウェアテストの設定	13
5 動作確認テスト	15
5-1 電源の確認	15

目次

5-2 画面表示の確認.....	15
5-3 画面切替の確認.....	16
5-4 RS232C制御の確認.....	16
6 操作方法.....	17
7 RS232Cによるリモートコントロール.....	19
7-1 コントロールが可能な機能.....	19
7-2 ハイパーターミナルからの制御例.....	19
7-2-1 事前準備.....	19
7-2-2 ハイパーターミナルの設定.....	20
7-2-3 ハイパーターミナルでの操作.....	24
7-2-4 コマンド一覧.....	25
7-3 VB (VER. 6.0) でRS232Cの切替コマンド出力するプログラム作成例.....	25
7-4 RS232Cコネクタ.....	26
8 仕様.....	27

1 製品概要

1-1 概要

本製品は、4入力・2出力のビデオ+音声の分配切換機です。
 切換方法は、本体のスイッチによる手動切換と、RS232C 経由でのパソコン等からの遠隔制御が可能です。
 様々なシステムに組み込んで、連動切換でも活用できます。

1-2 主な機能

本機器の主な機能は以下の通りです。

- 4つのビデオ画面+音声ソースを、2つに分配し出力可能。
 - ビデオ+音声分配機能
 - ビデオ+音声切換機能
- 本体の電源ON/OFF・切換操作をコンピュータから制御可能。
 - RS232Cによるリモートコントロールが可能
 - RS232Cポートが2つあるので、デージーチェーン可能

※ S端子の映像はS端子に、コンポジット端子の映像はコンポジット端子に出力されます。
 両方の端子に接続した場合にはS端子が優先されます。

1-3 対応機器

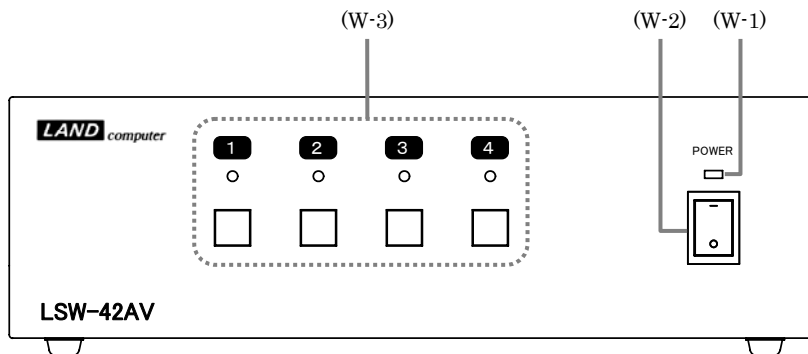
送信ソース (ビデオ等)	NTSC に対応したビデオ機器 (S 端子 RCA ピンジャック)
送信先ディスプレイ (プロジェクター等含む)	NTSC に対応したディスプレイ等 (S 端子 RCA ピンジャック)
制御元 (パソコン等)	RS232C インターフェースを装備した機器

1-4 パッケージ内容

型番	数量	内 容
LSW-42AV	1	AV セレクタ本体
—————	1	電源ケーブル
—————	1	アース線
—————	1	ユーザズガイド (本 書)
—————	1	保証書

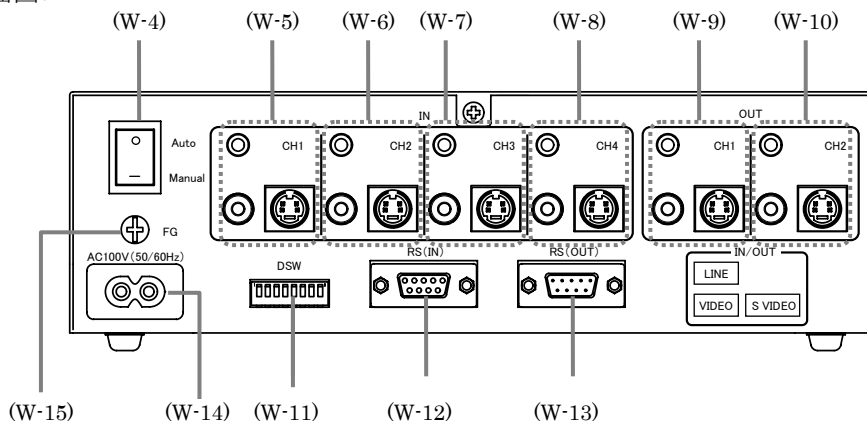
2 機器外観

< 前面図 >



- | | |
|-----------------|----------------------|
| (W-1) Power LED | (電源 ON で緑色に点灯します) |
| (W-2) 電源スイッチ | (電源の ON/OFF を行います) |
| (W-3) ソース選択ボタン | (映像・音声入力ソースの選択ボタンです) |

< 背面図 >



- | | |
|-------------------|----------------------------|
| (W-4) モード切換スイッチ | (制御モードを切換えます) |
| (W-5) 入力 1 | (映像・音声機器を接続します) |
| (W-6) 入力 2 | (映像・音声機器を接続します) |
| (W-7) 入力 3 | (映像・音声機器を接続します) |
| (W-8) 入力 4 | (映像・音声機器を接続します) |
| (W-9) 出力 1 | (映像・音声の出力先の機器を接続します) |
| (W-10) 出力 2 | (映像・音声の出力先の機器を接続します) |
| (W-11) ディップスイッチ | (動作モードを設定します) |
| (W-12) RS232C IN | (コンソールパソコンの COM ポートと接続します) |
| (W-13) RS232C OUT | (本システムでは使用しません) |
| (W-14) 電源コネクタ | (電源ケーブルで AC コンセントと接続します) |
| (W-15) アース端子 | (アース線でアースに接続します) |

3 接続方法

3-1 接続の概要

本製品には送信ソース画面となる機器（ビデオデッキなど）を4台、画面の出力先の機器（ビデオモニターや弊社教育支援システム「LNETシリーズ」など）を2台接続することができます。

※ 相手の機器によっては接続のコネクターが異なることがあります。その場合は市販の変換ケーブル等をご使用ください。

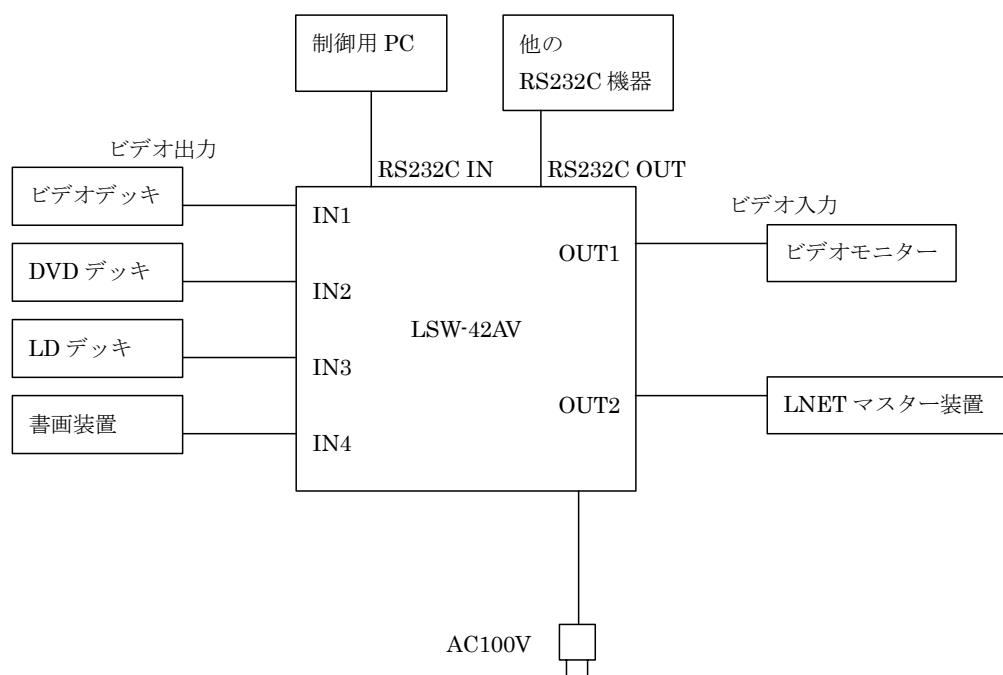
接続時には安全のため、接続する各機器の電源をすべて切っておいてください。電源が入ったままで接続などの作業をすると、感電や火災の危険があります。

接続は大きく分けて次の手順で行います

- 送信ソース機器（ビデオデッキなど）の接続
- 出力先機器（ビデオモニターや弊社教育支援システム「LNETシリーズ」など）の接続
- RS232Cケーブルの接続（リモートコントロールする場合）
- 電源ケーブルの接続

※ S端子の映像はS端子に、コンポジット端子の映像はコンポジット端子に出力されます。両方の端子に接続した場合にはS端子が優先されます。

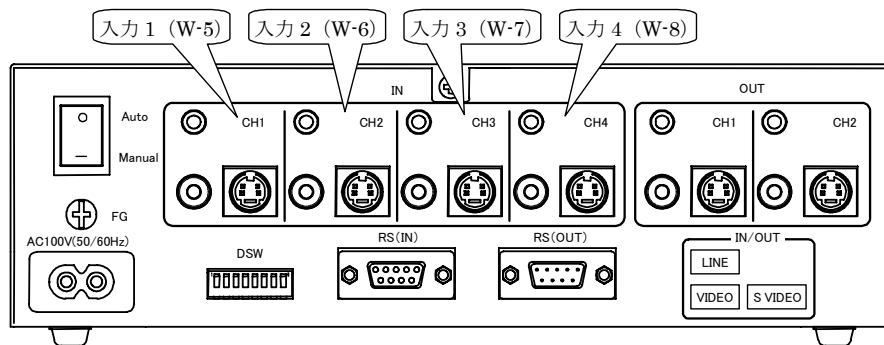
3-2 接続系統図



3-3 送信ソース機器の接続

ビデオデッキなどの送信ソースとなる機器を接続します。

「入力1 (W-4)」「入力2 (W-5)」「入力3 (W-6)」「入力4 (W-7)」に、ビデオデッキなどの送信ソース機器の映像・音声出力を接続します。

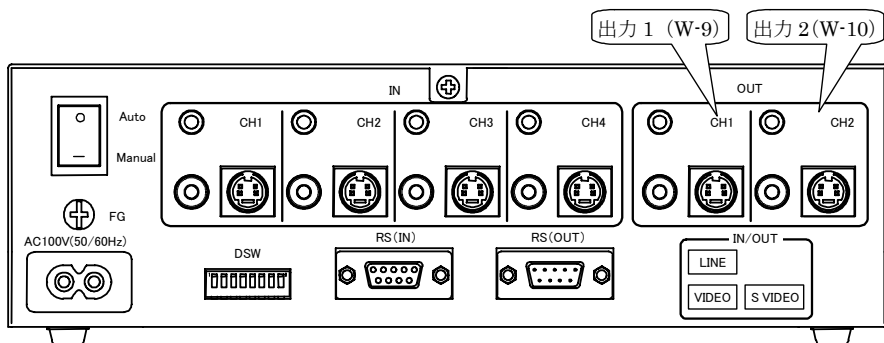


※ S端子の映像はS端子に、コンポジット端子の映像はコンポジット端子に出力されます。両方の端子に接続した場合にはS端子が優先されます。

3-4 送信先機器の接続

ビデオモニターやLNETマスター装置などの画面を表示する機器を接続します。

接続するコネクタは「出力1 (W-9)」「出力2 (W-10)」があります。



※ S端子の映像はS端子に、コンポジット端子の映像はコンポジット端子に出力されます。送信ソース機器の端子が混在している場合には、両方の端子に接続してください。

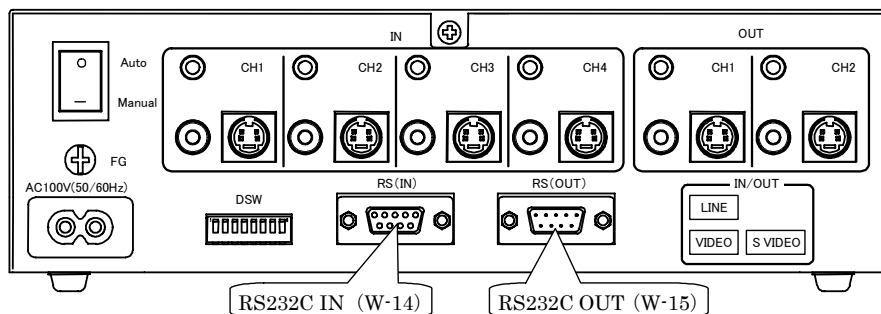
3-5 RS232C ケーブルの接続

本製品をコンピュータなどからリモートコントロールする場合に、本製品とコンピュータとを RS232C ケーブルで接続します。

コンピュータの RS232C ポートと「RS232C IN (W-14)」を RS232C ケーブルで接続します。

他の RS232C 機器を接続する場合には「RS232C OUT (W-15)」に RS232C ケーブルで接続してください。

※RS232C ケーブルはストレート結線のものを使用してください

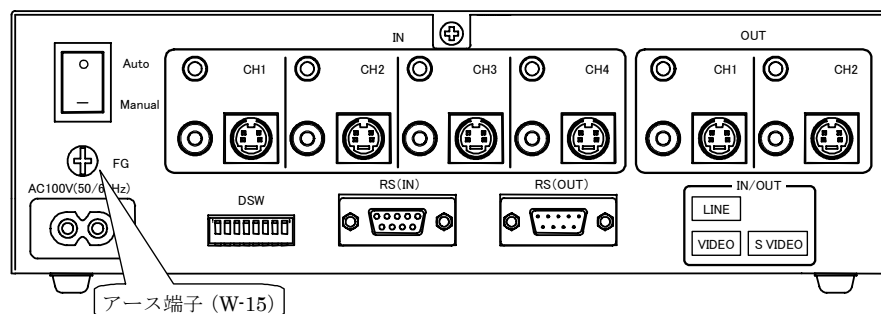


3-6 アースの接続

マスター装置の「アース端子 (W-15)」から付属のアース線で、アースを接続して下さい。

アースは必ず、電気配線業者の指定した場所に接続して下さい。

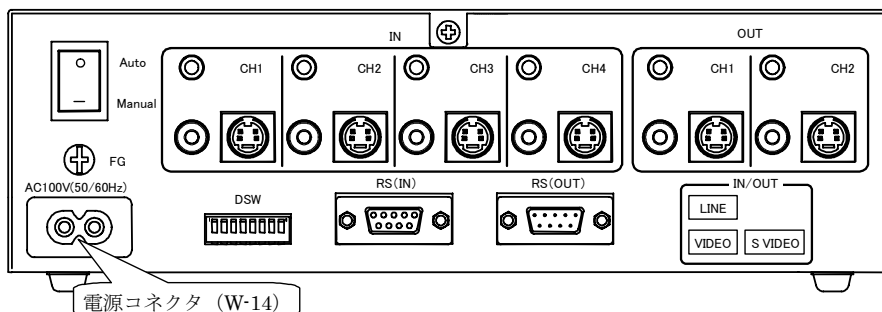
ガス管などには絶対にアースを接続しないで下さい。火災の危険があります。



接続方法

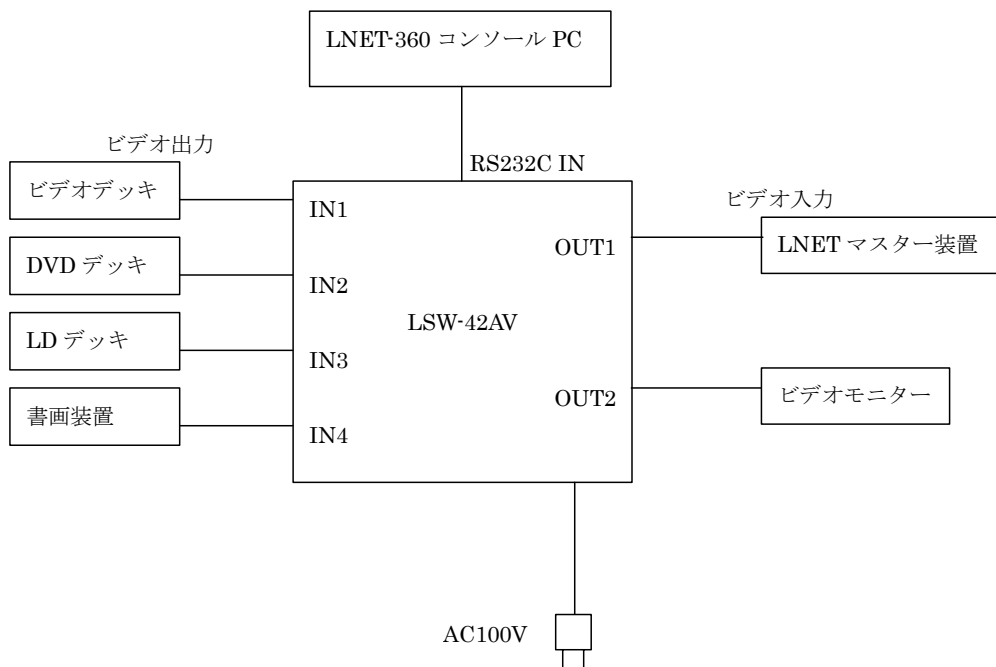
3-7 電源ケーブルの接続

本製品に電源を供給するために添付の電源ケーブルを接続します。
「電源コネクタ (W-14)」に電源ケーブルを接続します。



3-8 LNET-360 との接続例

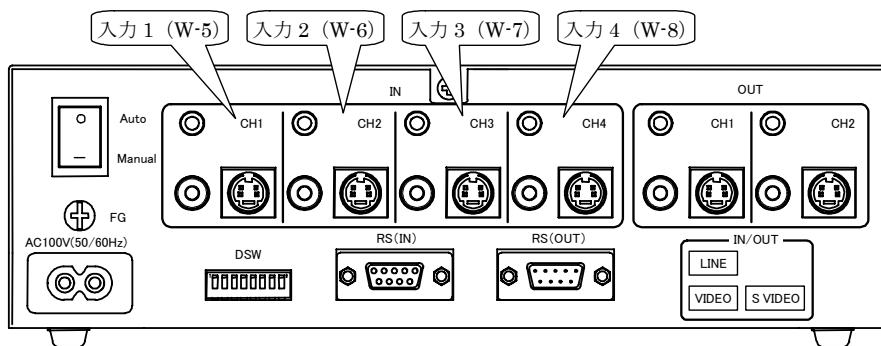
3-8-1 接続系統図



3-8-2 送信ソース機器の接続

ビデオデッキなどの送信ソースとなる機器を接続します。

「入力 1 (W-4)」「入力 2 (W-5)」「入力 3 (W-6)」「入力 4 (W-7)」に、ビデオデッキなどの送信ソース機器の映像・音声出力を接続します。

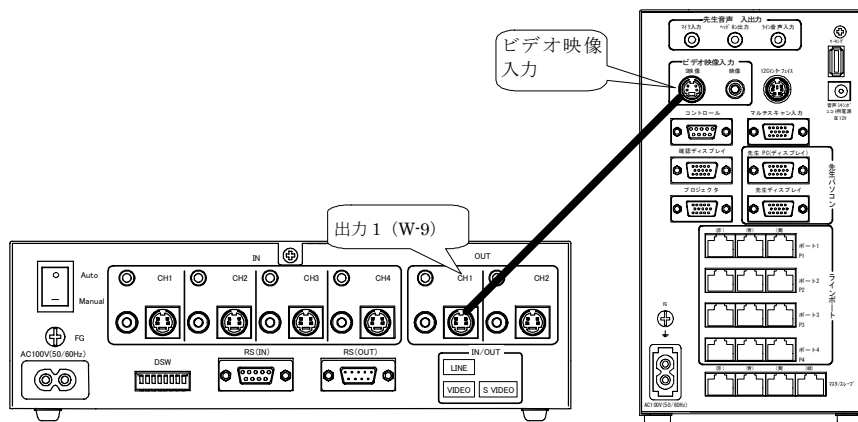


※ S端子の映像はS端子に、コンポジット端子の映像はコンポジット端子に出力されます。両方の端子に接続した場合にはS端子が優先されます。

3-8-3 LNET-360 マスター装置の接続

LNET-360 マスター装置を接続します。

「出力 1 (W-9)」と、LNET-360 マスター装置の「ビデオ映像入力」を別売りのビデオケーブルで接続します。



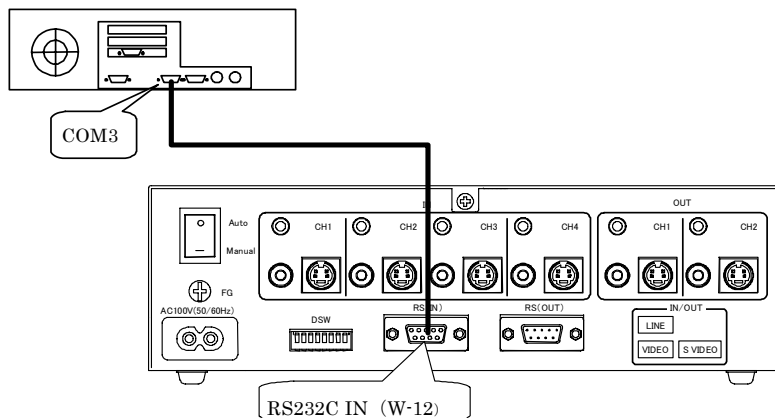
※ S端子の映像はS端子に、コンポジット端子の映像はコンポジット端子に出力されます。

LNETの入力はS端子のケーブルが接続されている場合には、コンポジットでの入力できませんので、接続する端子を統一して使用してください。

接続方法

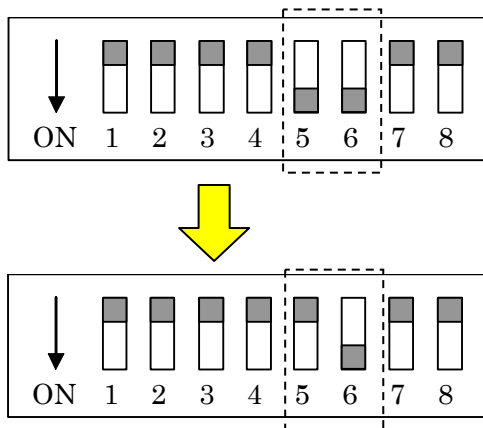
3-8-4 コンソールパソコン・マスター装置の接続

本製品と LNET-360 コンソールパソコンの COM3 に RS232C ケーブルで接続します。コンソールパソコンの COM ポート 2 をオプションの RS232C ケーブル（ストレート）で接続します。（コンソールソフトの環境設定にて接続ポートは変更可能です）



3-8-5 ディップスイッチの設定

初期状態から、RS232C インターフェースのボーレートを変更します。LNET-360 で使用する場合、ボーレートは 38400bps に設定してください。背面の「ディップスイッチ (W-12)」の DSW5 番を OFF・6 番を ON に設定します。



ボーレート	DSW5	DSW6
9600bps	ON	ON
★38400bps	OFF	ON
115200bps	ON	OFF

- ※ 工場出荷の初期状態では9600bpsです。
- ※ 他の設定は、初期状態のままにしてください。

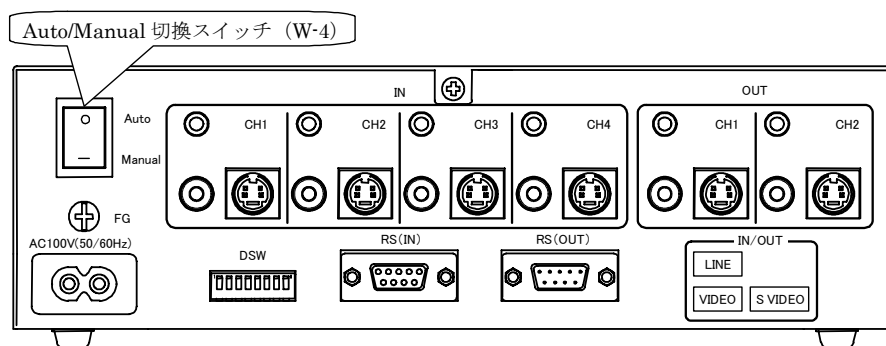
4 機器の設定

※ 動作確認テストは工場出荷時の初期設定の状態です。設定を変更する前に行うことをおすすめします。

4-1 工場出荷時の設定

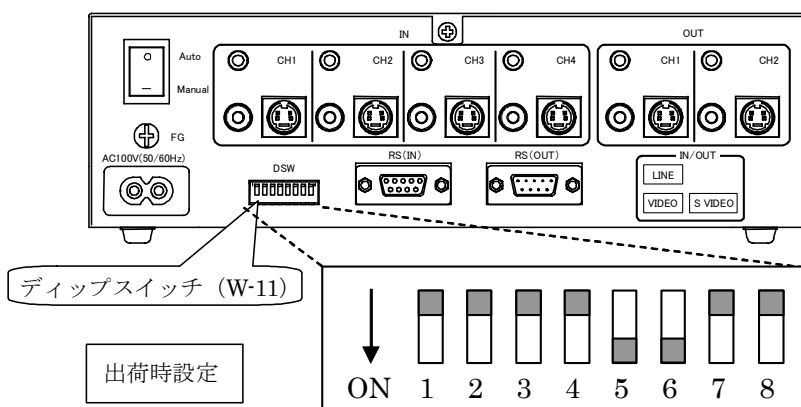
4-1-1 電源の Auto/Manual の設定

「Auto/Manual 切換スイッチ (W-4)」で設定します。
工場出荷時には「Manual」になっています。
設定できる内容と設定方法については「4-2 電源の Auto/Manual の設定」を参照してください。



4-1-2 ディップスイッチの設定

工場出荷時には下記の図のように設定されています。
使用方法に合わせて変更することができます。
設定できる内容と設定方法については 4-3～4-5 を参照してください。



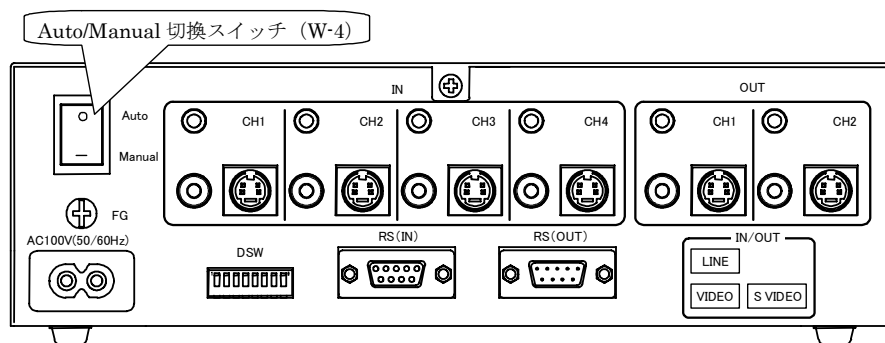
4-2 電源の Auto/Manual の設定

本製品の電源を RS232C 経由で制御するかどうかを設定します。
RS232C 経由で制御する場合には Auto に設定します。
※Manual モードでも切換制御は RS232C 経由で可能です。

切換は背面の「Auto/Manual 切換スイッチ (W-4)」で行います。

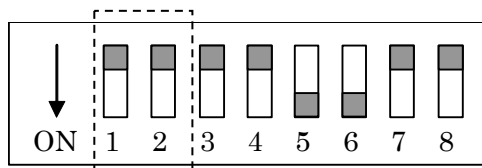
Auto : RS232C 経由で電源を制御します。この場合、本製品前面の電源スイッチは常に ON の状態にしておいてください。

Manual : 本体の電源スイッチで電源を制御します。



4-3 電源投入時の表示画面設定

電源投入時に表示する画面を選択します。
背面の「ディップスイッチ (W-11)」の DSW1・2 番で設定します。

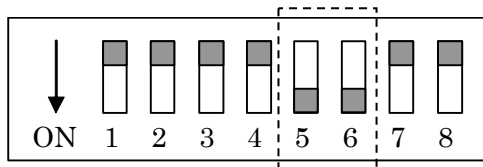


	DSW1	DSW2
入力ソース 1	OFF	OFF
入力ソース 2	ON	OFF
入力ソース 3	OFF	ON
入力ソース 4	ON	ON

※ 初期状態では入力ソース1の画面が表示されます。

4-4 RS232C のボーレートの設定

RS232C インターフェースのボーレートを設定します。
制御するコンピュータの RS232C インターフェースの設定に合わせて変更してください。
背面の「ディップスイッチ (W-11)」の DSW5・6 番で設定します。

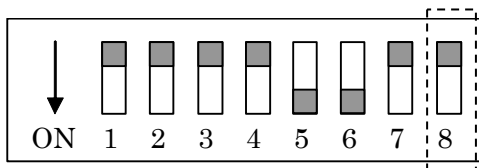


ボーレート	DSW5	DSW6
9600bps	ON	ON
38400bps	OFF	ON
115200bps	ON	OFF

- ※ 初期状態では9600bpsになっています。
- ※ LNET-360と一緒に使用する場合には38400bpsに設定してください。

4-5 ハードウェアテストの設定

本製品の電源投入時に、所定の切り換え動作を自動的に実行することができます。
背面の「ディップスイッチ (W-11)」の DSW8 番で設定します。



	ON	OFF
ハードウェアテストの有無	テストをする	テストをしない

- ※ 初期状態ではハードウェアテストをしない設定になっています。

- ハードウェアテストの内容
 - ① 入力1の画面を、出力1,2に表示 (5秒間)
 - ② 入力2の画面を、出力1,2に表示 (5秒間)
 - ③ 入力3の画面を、出力1,2に表示 (5秒間)
 - ④ 入力4の画面を、出力1,2に表示 (5秒間)
 - ⑤ テスト完了・通常の状態に戻る

5 動作確認テスト

設定条件が工場出荷時のままの場合を説明します。

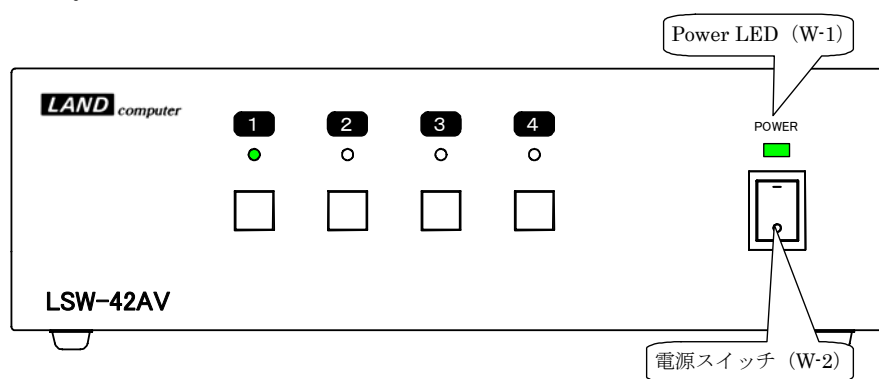
設定が工場出荷時の状態になっていることを確認してから、動作確認をおこなってください。

※ 設定変更した内容に読み替えながらテストをすることもできますが、問題が発生した場合には、工場出荷時の設定に戻してテストをおこなってください。

5-1 電源の確認

本製品の電源を投入します。

「電源スイッチ (W-2)」を ON にして、「Power LED (W-1)」が点灯することを確認してください。



LED が点灯しない場合には背面の「Auto/Manual 切換スイッチ (W-4)」が「Manual」になっていることを確認してください。

5-2 画面表示の確認

電源を入れた状態で、各出力に正常に画面が表示されるかを確認します。

「入力 1 (W-5)」に接続した機器の画面が各出力に表示されます。

※ ディップスイッチを出荷状態から変更している場合には、表示される画面が異なります。

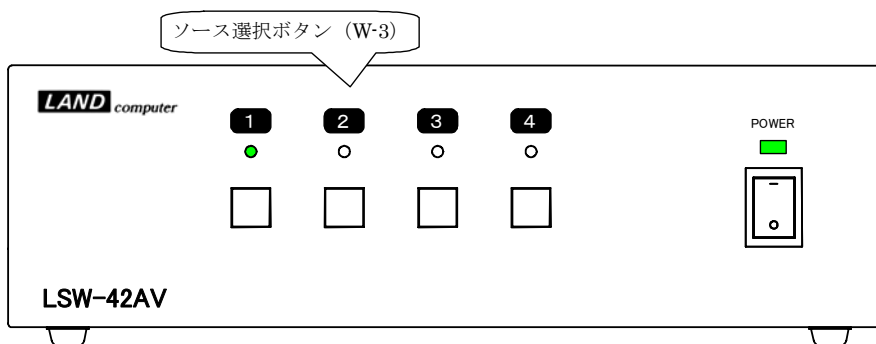
動作確認テスト

5-3 画面切換の確認

4 系統の入力からソース画面を選択して、それぞれ切り換えて表示できることを確認します。

本製品前面の「ソース選択ボタン (W-3)」を押して、切換操作を行ってください。LED の点灯と連動して画面が表示されることを確認します。

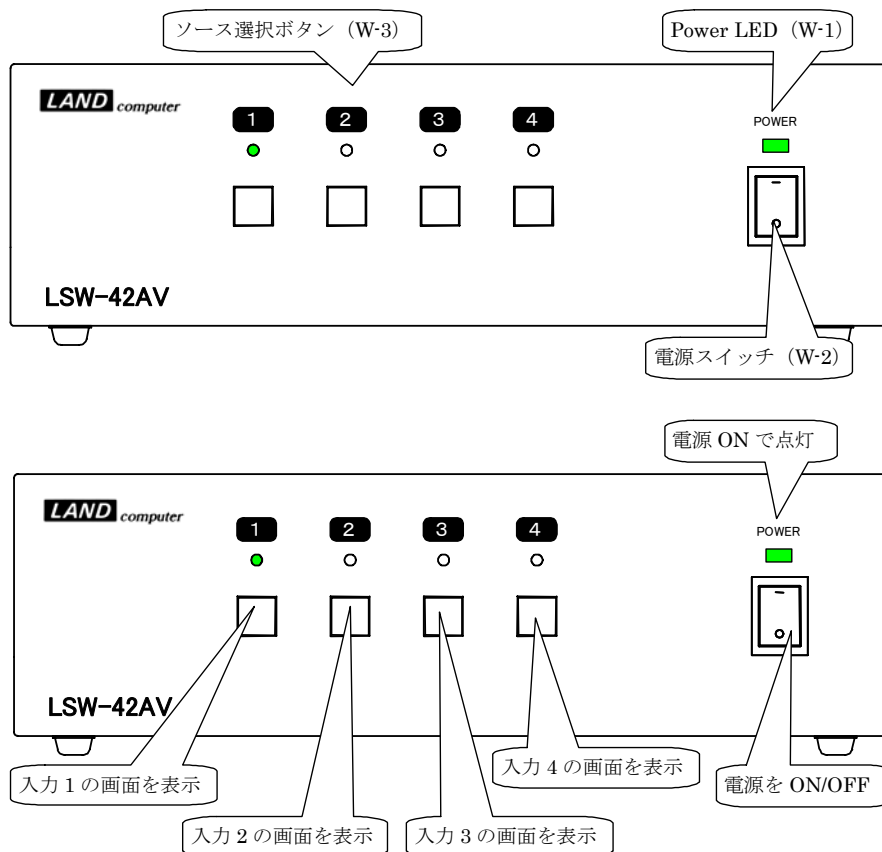
※ 自動的に画面を切り換える、ハードウェアテストモードもあります。
「4-5 ハードウェアテストの設定」の項目を参照してください。



5-4 RS232C 制御の確認

RS232C での制御の確認は「7 RS232C によるリモートコントロール」を参照してテストしてください。

6 操作方法



表示する画面を選択することができます。
 選択されている画面の LED が点灯します。

7 RS232Cによるリモートコントロール

本説明はコンピュータおよびRS232Cの知識があるユーザーを対象にしています。

7-1 コントロールが可能な機能

本製品は RS232C インターフェース経由で、パソコンなどからコントロールすることができます。

コントロール可能な機能は次の通りです。

- ① 本製品の電源ON/OFF制御
- ② 送信画面の切換
- ③ 送信状態の確認

※RS232C 経由でボーレートの変更はできません

7-2 ハイパーターミナルからの制御例

7-2-1 事前準備

※ ハイパーターミナルはWindowsの付属ソフトです。事前にインストールしておいてください。

事前に背面の「Auto/Manual 切換スイッチ」を AUTO にしてから、「電源スイッチ」を ON にしておきます。

ハイパーターミナルについては Windows の説明書やヘルプを参照してください。

7-2-2 ハイパーターミナルの設定

ハイパーターミナルを起動して、通信の設定を行います



Hypertrm.exe

ハイパーターミナルが起動したら、新しい接続の設定を開始します。

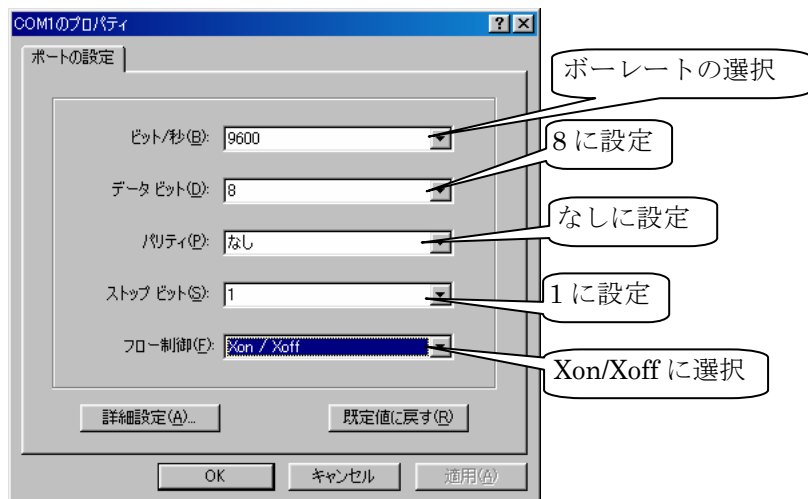
- 適当な接続名を入力して、アイコンを選択してから「OK」で次に進みます。
※この説明では「LSW-42AV」という接続名を使用しています。



- 本製品を接続したRS232Cポート（COMポート）を選択して「OK」で次に進みます。

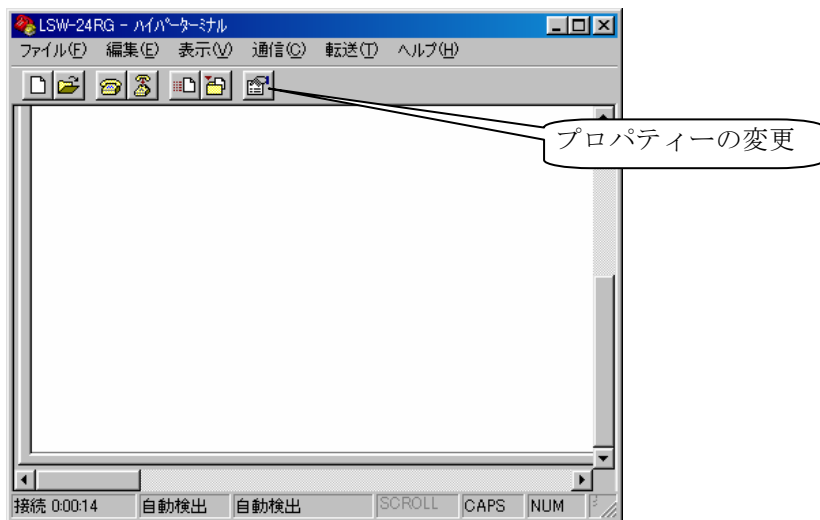


- RS232Cポート（COMポート）の設定を行います。
 - ① ディップスイッチで設定した本製品のボーレートに合わせて、ボーレートを選択します。
 - ② データビット長は「8」
 - ③ パリティは「なし」
 - ④ ストップビットは「1」
 - ⑤ フロー制御は「Xon/Xoff」
 - ⑥ 「OK」を押して設定を終了します

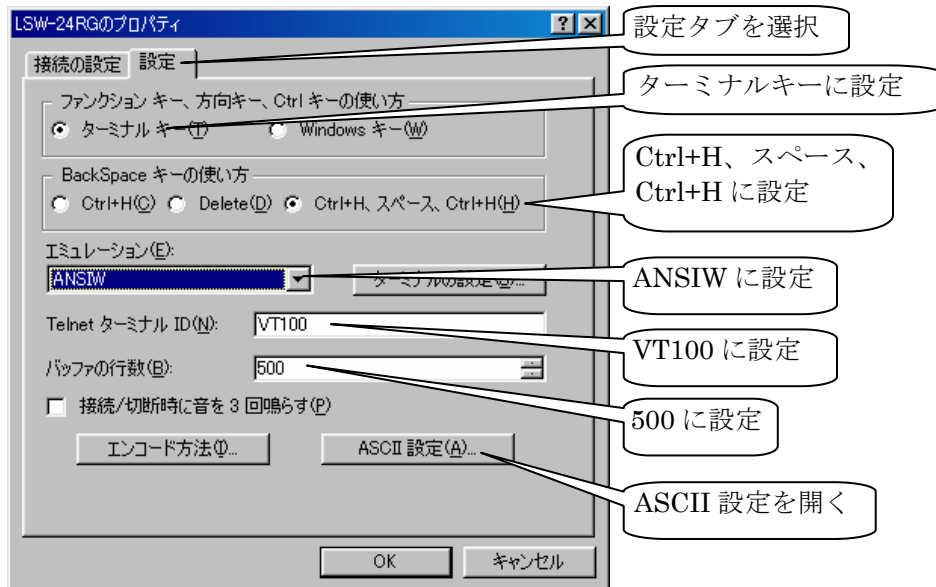


設定ができれば「OK」ボタンを押して次に進んでください。

- ハイパーターミナルが起動したら「プロパティ」を変更します。

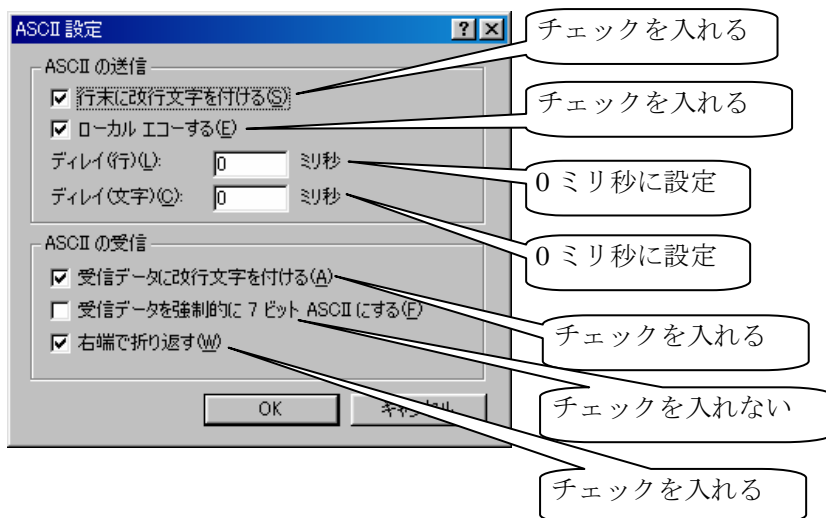


- プロパティの「設定」を変更します。
 - ① 「設定」タブを選択します。
 - ② ファンクションキー、方向キー、Ctrlキーの使い方は「ターミナルキー」
 - ③ BackSpaceキーの使い方は「Ctrl+H、スペース、Ctrl+H(H)」
 - ④ エミュレーションは「ANSIW」
 - ⑤ TelnetターミナルIDは「VT100」
 - ⑥ バッファの行数は「500」
 - ⑦ 「ASCII設定」を選択して、続いてASCII設定をおこないます。



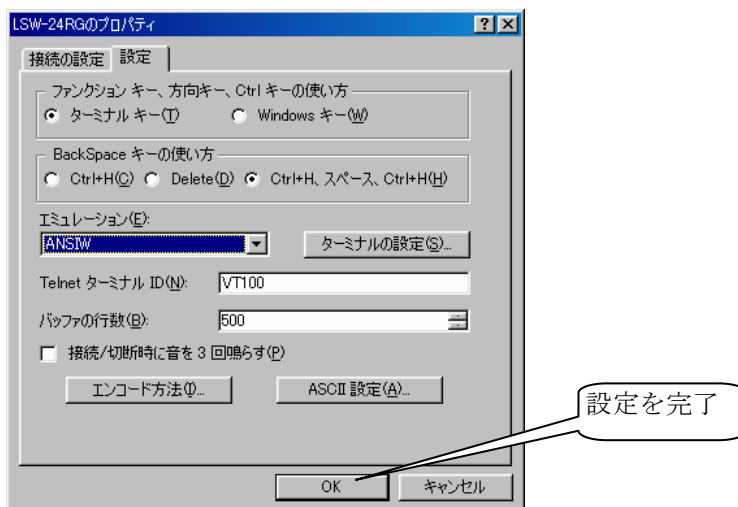
- ASCII設定

- ① 「行末に改行文字をつける」にチェックを入れる
- ② 「ローカルエコーする」にチェックを入れる
- ③ デレイ（行）は「0ミリ秒」
- ④ デレイ（文字）は「0ミリ秒」
- ⑤ 「受信データに改行文字をつける」にチェックを入れる
- ⑥ 「受信データを強制的に7ビットASCIIにする」にチェックを入れない
- ⑦ 「右端で折り返す」にチェックを入れる
- ⑧ 「OK」ボタンでASCII設定を終了する



- 設定の完了

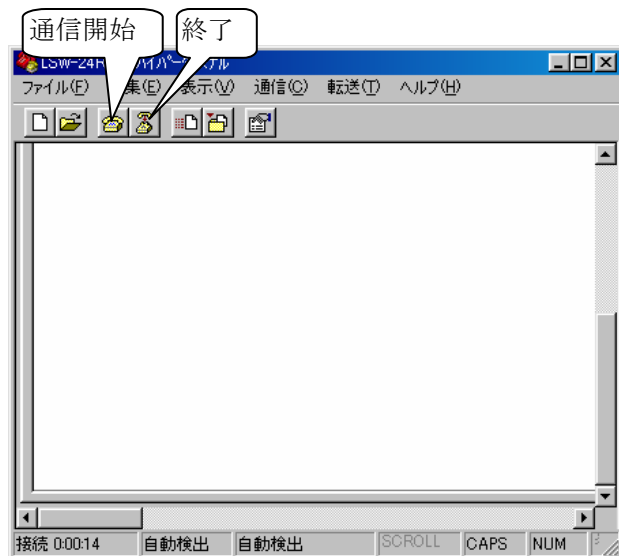
「OK」ボタンを押してすべての設定を完了します。



7-2-3 ハイパーターミナルでの操作

- 通信開始・終了

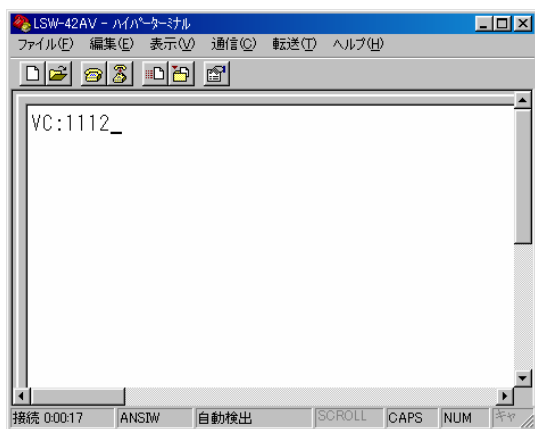
「電話」 ボタンを押して、通信を開始します。
通信を開始すると本製品の電源が ON になります。
電源を切る場合には「終了」 ボタンを押して通信を終了します。



- コマンドの入力例

入力 2 の画面を出力 1・2 に出力します。
次のコマンドを入力してください。

EscAVC:0112**Enter**



※**Esc**直後の「A」は画面上に表示されませんが問題ありません。
画面が切り替わらない場合は、接続と設定を確認してください。

7-2-4 コマンド一覧

RS 通信の切換 (状態取得・コマンドエコー時にのみ ON にします)		
OFF (初期状態)		Esc AVL:0010 Enter
ON		Esc AVL:0011 Enter
状態取得・コマンドエコー (RS 通信の切換が「ON」の時に可能)		
ディップスイッチとボタンの状態取得		Esc AVS: Enter
現在選択されているソースの状態取得		Esc AVG: Enter
エコー (データが送受信できているか確認できる)		Esc AVE: Enter
リセット		
リセット (スイッチを初期状態に戻す)		Esc AVR: Enter
画面切換制御		
入力 1→	出力 1・2 (初期状態)	Esc AVC:0111 Enter
入力 2→	出力 1・2 (初期状態)	Esc AVC:0112 Enter
入力 3→	出力 1・2 (初期状態)	Esc AVC:0113 Enter
入力 4→	出力 1・2 (初期状態)	Esc AVC:0114 Enter
出力 ON/OFF	出力 1 ON	Esc AVC:0121 Enter
	出力 1 OFF	Esc AVC:0120 Enter
	出力 2 ON	Esc AVC:0131 Enter
	出力 2 OFF	Esc AVC:0130 Enter

※RS 通信の切換が ON の時には通常の画面切換などの操作ができません。

※初期状態はディップスイッチの設定を変更することにより変わります。

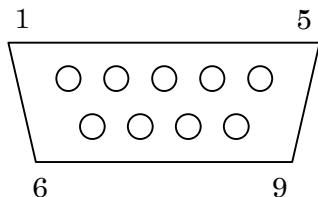
7-3 VB (VER. 6.0) で RS232C の切換コマンド出力するプログラム作成例

- FORM に RS232c の control (MSComm) を貼り付けて、object name を MSC om1 にしてください。
- Form Load時に実行するプログラムを以下のように書いてください。

```
Private Sub Form_Load()
    MSCom1.PortOpen = True           'ポートオープン
    MSCom1.Settings = "9600,N,8,1"
    '通信条件は「4-2 RS232C のボーレートの設定」と合わせてください
    MSCom1.Handshaking = 0          '0 又は 1 を指定して下さい。
    MSCom1.Output = Chr$(&H1B) & "AVC:0111" & Chr$(&HD)
    MSCom1.PortOpen = False         'ポートを閉じる
End Sub
```

7-4 RS232C コネクタ

コネクタ外観（本製品のコネクタを正面から見た図）



ピン	内容	意味	I/O
1	DCD	キャリア検出	I
2	RXD	受信データ	I
3	TXD	送信データ	O
4	DTR	データターミナルレディ	O
5	GND	信号用グラウンド	
6	DSR	データセットレディ	I
7	RTS	信号要求	O
8	CTS	送信可	I
9	RI	Ring indicator	I

I = → コンピュータ

O = ← コンピュータ

接続ケーブルには 1 : 1 のストレートケーブルを用いてください。

8 仕様

LSW-42AV 仕様

入力	ビデオ映像 (S 端子・コンポジット) 音声 (ステレオミニ PIN) ×4
出力	ビデオ映像 (S 端子・コンポジット) 音声 (ステレオミニ PIN) ×2
制御インターフェース	RS-232C 入力 (D-sub 9Pin) ×1 RS-232C 出力 (D-sub 9Pin) ×1
切換方法	本体の押しボタン、もしくは RS232C インターフェースによる遠隔制御
外形寸法	235(W)×180(D)×70(H) mm
重量	約 2.4kg
電源	AC100V ±10% 50/60Hz
消費電力	15W (15VA) 以下
使用環境	周辺温度 5℃～35℃ 相対湿度 40%～95%RH 但し、結露なきこと

4 対 2AV セレクタ

◇ <LSW-42AV ユーザーズガイド> ◇

発行所： **株式会社ランドコンピュータ**

Printed In Japan

サポート部：(0120) 161639 (フリーダイヤル)

オンライン受付：http://www.landcomp.co.jp/support/rep_guide.htm

E-mail：support@landcomp.co.jp

< 本 社 > 〒532-0011 大阪市淀川区西中島 7-4-17 新大阪上野東洋ビル

TEL 06(6304)8424

FAX 06(6307)2121

< 熊本テクニカルセンター >

〒861-2202 熊本県上益城郡益城町田原 テクノリサーチパーク内

TEL 096(286)9341

FAX 096(286)9342

サポート体制と修理サービス

ランドコンピュータでは、お客様に当社製品を安心してご使用していただくために、サポート体制の充実を図っております。

製品の接続や操作方法についてのご質問や、万一、製品が正常に作動しない場合は、下記のサポート部までお問い合わせ下さい。

サポート部へのお問い合わせは

1. オンライン受付：

http://www.landcomp.co.jp/support/rep_guide.htm

2. E - M a i l：

support@landcomp.co.jp

3. F A X：

096-286-9342

受付時間：24時間

4. 電話：

096-286-9341

受付時間： 9：00～12：00 13：00～17：30

(土曜日・日曜・祝日を除く)

5. フリーダイヤル：

0120-161639 (PHS、携帯からもかかります)

受付時間： 9：00～12：00 13：00～17：30

(土曜日・日曜・祝日を除く)

◎当社に修理サービスをご依頼の際のお願い

まず、上記サポート部にご連絡下さい。担当者より、修理受付番号と修理品返送先を記載した「修理受付連絡書」をFAXでお知らせいたします。

ご返送いただく製品の外箱に「修理受付番号」及び「修理品」と明記の上、保証書を添付して修理品返送先にご返送下さい。

修理受付番号のないものは処理しかねる場合もございますので、ご了承下さい。

株式会社 **ランドコンピュータ**